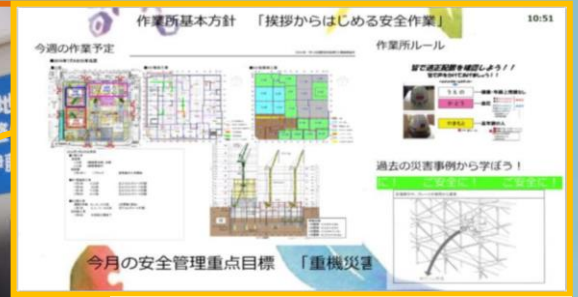
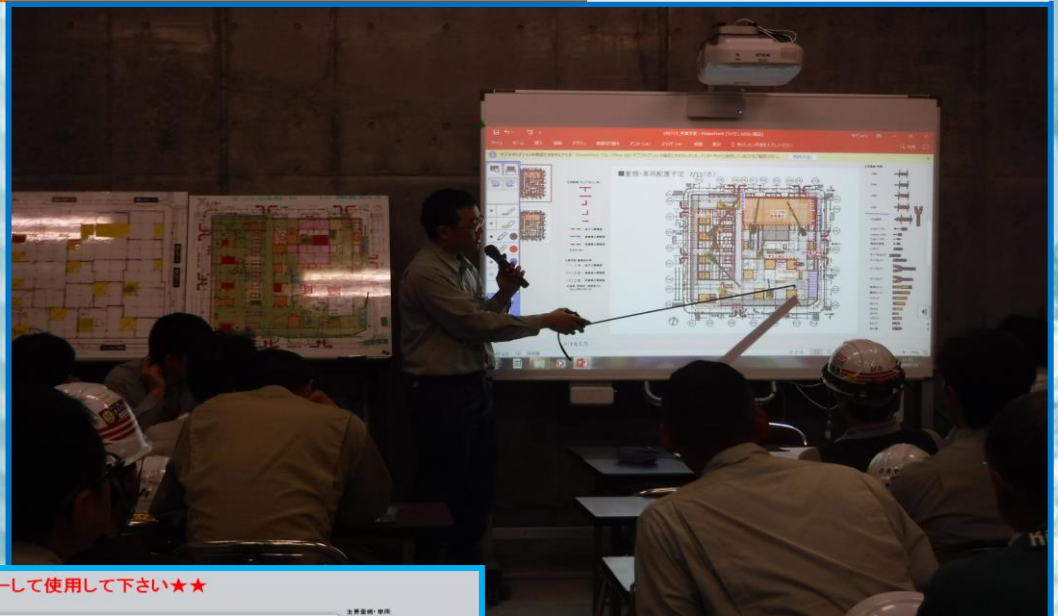


# ITを活用した危険情報の『見える化』

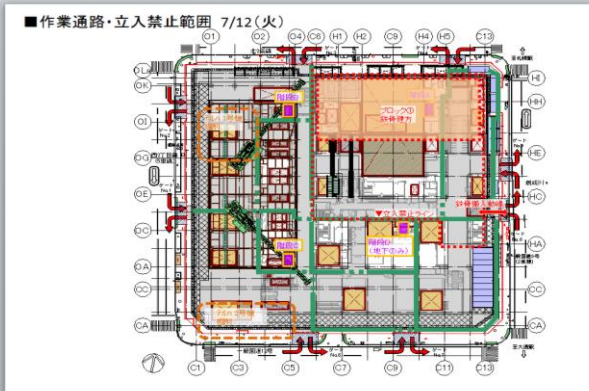


デジタル化する事で、常に最新の危険箇所や作業通路等の情報を全員が共有する事が可能となった。通門管理ハウスで常に放映することにより、現場入場者全員がいつでも場内の作業状況や作業通路の確認後に現場に入場可能となった。

日々行う作業調整で使用する打合せボードのデータは作業所事務所内で2週間先までの最新データを全員が閲覧・修正可能。作業所内でデータ化し共有する事で、高層棟、低層棟、地下の各担当社員が効率よく入力出来、1階スラブ上の重機配置や立入禁止エリア等の調整に必要な最新情報を容易に確認する事が可能となった。また、打合せ室にもPC及びスクリーンを設置する事で、打合せ時に変更になった内容をすぐに反映することが可能となった。



★★必ずコピーして使用して下さい★★



データ上では、左側に記入時のルールが分かりやすく記載されている。また、右側には、図と縮尺を合わせた車両のイラストがあるので、車両のイラストを図に貼り付けて使用する事が可能。シートは、作業通路・立入禁止範囲と重機車輛配置予定の2種類に分けて使用している。

打合せで使用したデータを朝礼会場のプロジェクターで映し出し使用している。マグネットやパネルタイプの朝礼用パネルとは違い、配置図の情報を大きく映すことが可能で、朝礼時に全作業員に対し分かり易く立入禁止エリアや作業通路等の説明が可能となった。

